

大田区議会 公明党 ニュース

2010年 春季号

発行 / 大田区議会公明党(大田区蒲田5-13-14 TEL.5744-1488)

新ビジョン

「新しい福祉・教育・平和をつくる公明党」

昨年12月、公明党は新ビジョン「新しい福祉・教育・平和をつくる公明党」を発表しました。新しいビジョンでは「人道の先進国」日本をめざし、一人一人に最大の価値を置く、地域主権の政治を実現するためのものです。大田区議会公明党は、「福祉」「教育」「平和」という公明党のカラーをより鮮明にした取り組みに挑戦して参ります。

2月22日から3月25日まで、区議会第1回定例会が開催されました。代表質問には富田俊一議員、一般質問には飯田茂議員、清波貞子議員が登壇。公明党の要望を主張。

松原区長の平和市長会議参加を強く要望

松原区長は公明党の要望に応え、参加を表明

平和市長会議は、反核運動を促進する世界の地方自治体で構成される国際機構で、1982年に当時の広島市長の呼びかけにより設立をされました。

市長が参加を表明すれば、その地方自治体は2020年までの核

兵器廃絶を目指し、そのための交渉を推進することを約束することになります。2010年3月1日現在、世界135の国と地域の3,680の自治体が加盟をしています。

女性のための健康支援事業の維持を要望

大田区は独自の予算編成で、がん検診無料クーポンの継続を約束

鳩山政権の事業仕分けにより、平成22年度は前年度に比較して、女性の健康支援事業が半分に削減され、乳がん・子宮がん検診無料クーポン予算が大きく削られました。自治体によっては中止を余儀なくされる可能性が出ている中、大田区の対応につい

て公明党は、「今後もこの制度を維持すべきである」と要望いたしました。

その結果、大田区は独自の予算編成を行い、公明党が推進してきたこの制度の維持を約束いたしました。



溝口 誠



荒川 善夫



高橋 博



飯田 茂



富田 俊一



清波 貞子



古山 昌子



渡部登志雄



松本 洋之



丸山 かよ



岡元 由美



勝亦 聡

平成22年度予算 可決

現場の声から政策実現

平成22年度予算特別委員会は、3月11日から3月23日に行われ、委員長として松本洋之区議会議員が就任し議事、運営を行いました。平成22年度の一般会計予算規模は、2,267億6千万円余で、厳しい財政状況化においても、前年度比162億7千万円、7.7%の増額予算となりました。経常的経費では75億円の削減を実現し、最小の経費で最大の効果をめざしていることを高く評価します。また、本予算では公明党の要望・提案した政策が数多く盛り込まれました。代表的なものをご紹介します。



新規事業

特別養護老人ホーム整備

2施設 144床 ショートステイ18床を平成24年4月開設

高齢者補聴器購入助成

住民税非課税世帯の70歳以上で、医師が補聴器を必要と認める高齢者。助成限度額は2万円。

難聴児補聴器購入費助成

中学生以下の児童で、身体障害者手帳の交付対象とならない聴力程度の児童(所得制限あり)。助成限度額は片耳5万円、両耳10万円(1回を限度)

大田区少子化対策緊急事業

産科医療機関設備助成

設備整備費を助成し、安心して生み育てられる大田区を目指します。

肺炎球菌予防接種費用助成

70歳以上(5歳刻み)で、助成額4千円(1人1回まで)

ヒブ(Hib)ワクチン接種費用助成

生後2か月から2歳未満の乳幼児で、助成額3千円(1人4回まで)

待機児対策の充実

保育ママのグループによる乳幼児保育(10名程度)を行うグループ保育を推進しました。

こども発達センターわかばの家

新たに土曜日開設

利用できる日数を増やすとともに、家族参加を支援します。

がけ等の整備

区内のがけ等の実態調査を行い、がけ崩れ災害を未然に防止することで、災害に強いまちづくりを目指します。

学校運営システムの開発

校務の効率化を図り、教員の負担を減らし、子供と向きあえる時間を確保します。

継続事業

グループホーム・ケアホームの整備

妊婦健康診査

幼児用自転車ヘルメットの購入費助成

新製品・新技術開発支援

エコライフの普及(機器設備補助)

緑化の推進

なんでもお気軽にご相談ください **大田区議会公明党** TEL 5744-1488 FAX 3730-2668

大田区議会公明党ホームページ [<http://www.komei-ota.jp/>] 大田区ホームページアドレス [<http://www.city.ota.tokyo.jp/>]